



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本医療大学	階数	4
建設地	札幌市豊平区月寒東3条11丁目 268-2の内	構造	RC造
建物用途	学校	平均居住人員	0人
竣工年	令和8年2月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	35,418 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	12,428 m ²	評価の実施日	2024年12月18日
延床面積	42,205 m ²	作成者	
		確認日	2024年12月18日
		確認者	

※ここに外観パースを貼り付けてください。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.71**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

<p>総合 道路境界線から外壁面を30m後退させ建物前面はカーテンウォールとし、道路境界線、隣地境界線には植え込みとし、周辺環境や歩行者へ配慮した設置計画とします。建物内には中庭を設け、光や風が通り抜ける開放的な空間をつくります。</p>	<p>A 省エネルギー 照明器具をLEDとし、消費電力を低減させます。建物の高断熱化、複層ガラスの採用により冷暖房の効率化を図ります。</p>	<p>D 雪処理 建物屋根は陸屋根とし、ポーチ部には庇を設けロードヒーティングを設け、冬期間の利用のしやすさに配慮した計画としました。</p>
<p>B 省資源等 節水型水栓の採用。建物内にゴミ置き場・塵芥室を設けリサイクルに努めます。</p>	<p>C 緑化 許可基準緑化率30%に対し緑化率35%以上。</p>	

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄					建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体						
配慮項目	重点評価項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数												
Q 建築物の環境品質													3.3						
Q1 室内環境													3.1						
1 音環境													3.0						
1.1 室内騒音レベル													3.0	0.40					
1.2 遮音													3.0	0.40					
1 開口部遮音性能													3.0	0.30					
2 界壁遮音性能													3.0	0.30					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0	0.20					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0	0.20					
1.3 吸音													3.0	0.20					
2 温熱環境													3.0	0.35					
2.1 室温制御													3.0	0.50					
1 室温													3.0	0.60					
2 外皮性能													3.0	0.40	省エネ				
3 ゾーン別制御性																			
2.2 湿度制御													3.0	0.20					
2.3 空調方式													3.0	0.30					
3 光・視環境													2.9	0.25					
3.1 屋光利用													2.4	0.30					
1 屋光率													2.0	0.60					
2 方位別開口																			
3 屋光利用設備													3.0	0.40	省エネ				
3.2 グレア対策													3.0	0.30					
1 屋光制御													3.0	1.00	省エネ				
3.3 照度													4.0	0.15		教室・事務室 照度500～600に設定します。			
3.4 照明制御													3.0	0.25					
4 空気質環境													3.7	0.25					
4.1 発生源対策													4.0	0.50					
1 化学汚染物質													4.0	1.00		使用する材料は全てF☆☆☆☆等級以上とします。			
4.2 換気													3.0	0.30					
1 換気量													3.0	0.33					
2 自然換気性能													3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮													3.0	0.33					

4.3 運用管理					4.0	0.20		-	
1	CO ₂ の監視		-		3.0	0.50		-	
2	喫煙の制御		敷地内、建物内全面禁煙です。		5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.3
1 機能性					3.7	0.40		-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ					-	-		-	
1	広さ・収納性		-					-	
2	高度情報通信設備対応		-					-	
3	バリアフリー計画		-					-	
1.2 心理性・快適性					2.5	0.50		-	
1	広さ感・景観		-		2.0	0.50		-	
2	リフレッシュスペース		-					-	
3	内装計画		-		3.0	0.50	1.0	-	
1.3 維持管理					5.0	0.50		-	
1	維持管理に配慮した設計		内外装に防汚性・耐久性の高い仕上げ材を採用します。		5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		既存棟各階に掃除用具置場(掃除用SK付)を設置し、1Fに清掃員休憩室を配置しています。		5.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-		3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-		3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-		3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	給水管にPEP(B)、排水管にVP(B)を使用します。		4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性					3.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		-		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		節水器具の採用をします。		4.0	0.20		-	
3	電気設備		-		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		-		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		-		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.1	0.30		-	3.1
3.1 空間のゆとり					3.4	0.30		-	
1	階高のゆとり		-		3.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		基準階3F壁長さ比率0.12		4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30		-	

3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		—	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30		-	3.5
1 生物環境の保全と創出		緑化	—	3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化	既存樹木を保存し、既存の建物や周辺環境・まちなみへの配慮をしています。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		雪処理	中庭を設けて開放的な空間にします。建物入口に警備員室を設け防犯性に配慮しています。	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		省資源緑化	—	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.5
LR1 エネルギー				—	0.40		-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI= 0.58 品確法= モデル建築法	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用		省エネ	—	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	BEI= 0.71 —	3.9	0.50		-	3.9
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	—	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1	モニタリング	省エネ	—				-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—				-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30		-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水			自動水栓の採用をします。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60		-	3.3
2.1 材料使用量の削減		省資源	—	3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源	—	3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源	—	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	階段滑り止め、自動水栓	4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源	—	2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源	乾式間仕切り壁の使用により分別可能です。	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止		省資源	-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制			5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		4.0	0.25		-	
				駐車場の出入りは左折限定とする。荷捌き用の駐車スペースは建物南側に確保します。				
				建物裏側に排雪スペースを確保。既存棟・増築棟共にIFIに塵芥室を設置し、厨房用のゴミ置き場も設置します。				
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音		-	3.0	1.00		-	
2	振動		-	-	-		-	
3	悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-		-		-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70		-	
				広告物の照明は行いません。				
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	日本医療大学				
建物用途	学校				
延床面積	42,205.2 m				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理 省資源等への取組 緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア						合計		17.5点 / 23.5点	
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 6.6)									
Q1 温熱環境	スコア	0.8	/1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0	/4.0	省エネ	
Q1 光・視環境	スコア	1.3	/2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0		
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	7.8	/10.0		
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	/4.0		
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)						合計		15.8点 / 23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.9	/9.0	省資源	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3	/1.9		
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8	/5.0		
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.7	/4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)						合計		10.4点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5	/2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	/6.0						
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	/2.3						
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)						合計		3.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	/2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数